

平成 27 年度 検証結果報告書 (公立鳥取環境大学)



## 動物実 に関する検証結果報告書

(公立鳥取環境大学)

### 動物実 に関する外部検証事業

(国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実 動物施設協議会)

平成 28 年 3 月

平成 28 年 3 月 31 日

公立鳥取環境大学  
学長 高橋 一 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価結果報告書  
に対する検証結果を通知します。

国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会  
動物実験に関する外部検証事業  
検証委員会 委員長



対象機関：公立鳥取環境大学  
申請年月日：平成 27 年 9 月 11 日  
訪問調査年月日：平成 27 年 12 月 14 日  
調査員：下田 耕治（慶應義塾大学）

#### 検証の総評

公立鳥取環境大学は平成 13 年に公設民営大学として開設され、平成 24 年に公立化し、環境学部と経営学部の 2 学部に再編された。動物を用いた研究は環境学部で実施され、その多くは自然環境下の野生動物の生態観察である。捕獲した野生動物（捕獲許可済み）を人工環境下で飼育し、非侵襲的な操作を加えた行動観察実験を実施しており、これが動物実験に該当する。実施される動物実験はきわめて侵襲度が低く、春に捕獲した野生動物は冬眠期前の秋に自然界に戻しており、動物の習性に配慮している。その他、自然界に戻すことのできない動物は終生飼養を原則としている。マウス、ラット等、通常の実験動物を用いた動物実験は実施されていない。

「公立鳥取環境大学動物実験規程」（平成 25 年 3 月 1 日規程第 9 号）が定められ、動物実験計画の審査、承認、結果報告、教育訓練、自己点検・評価などは、文部科学省の基本指針に則して実施されている。情報公開項目に関しては「動物実験に関する情報公開に関する更なる取組について」（国立大学法人動物実験施設協議会、公私立大学実験動物施設協議会）の要請に基づき、公開項目を充実させたい。



いる動物実験が極小規模であるため実質的な問題はないが、今後学外委員の依頼などを検討されたい。

### 3. 動物実験の実施体制

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

「公立鳥取環境大学動物実験規程」において、動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告等の手続が規定され、そのための各種様式も定められている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

#### 4) 改善に向けた意見

特になし。

### 4. 安全管理を要する動物実験の実施体制

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

該当なし。

#### 3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。

該当なし。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

「飼養保管施設設置承認申請書」「実験室設置承認申請書」等が定められ、飼養保管施設として

3) 検証の結果

基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。

- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

研究対象が野生動物であるため、自然環境に近い飼育形態がとられている。また、動物種に応じて健康管理がなされており、今後も良好な状態を維持されたい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

意見

特になし。

## Ⅱ. 実施状況

### 1. 動物実験委員会

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

委員会は年 1 回 3 月に開催され、動物実験計画等を審議し、その結果を学長に報告している。議事録も適正に保管されている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

#### 3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 4) 改善に向けた意見

特になし。

### 2. 動物実験の実施状況

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。

- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験計画数が年 2～4 件であり、結果報告書の提出率も 100%である。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

#### 3) 検証の結果

基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。

- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 4) 改善に向けた意見

今年度から実施した動物実験に関する自己点検票の提出はなかったが、今年度の自己点検・評価を実施するときは作成されたい。





多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見  
特になし。

## 7. 自己点検・評価、情報公開

### 1) 機関による自己点検・評価結果

■ 毎年 1 回自己点検・評価を実施し、その結果を HP に公開している。公開情報の内容は概ね適切であるが、飼養保管施設および動物実験委員会に関する情報が未掲載である。よって、自己点検・評価・情報公開について、検証の結果「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある」とする。

### 2) 自己点検・評価の妥当性

毎年 1 回自己点検・評価を実施し、その結果を HP に公開している。公開情報の内容は概ね適切であるが、飼養保管施設および動物実験委員会に関する情報が未掲載である。よって、自己点検・評価・情報公開について、検証の結果「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある」とする。

### 3) 検証の結果

- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

## 8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

### 意見

公立鳥取環境大学で実施される動物実験は行動観察であり、侵襲度はきわめて低く、実験実施者も実質 1 名である。小規模施設ながら適正な実施体制が確立され、実施状況も良好な状態を維持していることは評価できる。また、実験実施者が当該野生動物のエキスパートであることから、それぞれの動物の習性に応じた健康管理が実施されていること、自然界に戻すことのできない動物は終生飼養を原則としていることなど、動物福祉について配慮している点は高く評価できる。なお、野外観察も含め野生動物を対象とした実習に関わる学生に対し、野生動物由来の人獣共通感染症や動物による咬傷事故等の情報の提供および防止措置の指導に留意されたい。また、野生動物の再放獣の際には生態系の攪乱や人獣共通感染症を含む感染症の拡散等、生態系や人間社会

への悪影響<sup>等</sup>のリスクを考慮のうえ、実施されたい。